

3-3 事業実施状況

*次ページから 65 ページまでの表は、以下の点を参考にしてください。

- ・区分欄は、継続事業、拡充事業、新規事業の区分を表示しています。・・・・・・・・・・・・・・・・ ①
 - 継続**ー 現在行われている取り組みの内容を充実し、継続するものを表しています。
 - 拡充**ー 現在行われている取り組みの機会を広げるものを表しています。
 - 新規**ー 平成 23 年度（2011 年度）より新規に取り組むものを表しています。
- ・状況欄には実施、一部実施、未実施について ○ △ □ で表しています。・・・・・・・・・・・・ ②
 - ・・・実施 △・・・一部実施 □・・・未実施
- ・「指標」とはそれぞれの取り組みの成果を知る目安となるものです。（実施状況に応じて、今後変更になることがあります。）例えば行事の実施回数や参加人数などがあげられます。・・ ③
- ・「実績」とは指標に該当する回数や人数をさしています。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ④
- ・「実施状況と課題」にはそれぞれの取り組みの実施状況や課題について、担当部局や団体が執筆しています。・・ ⑤
- ・取り組みへの参加者の声などを記述した項目もあります。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ⑥
- ・「関係部局・団体」の名称に○印がついているのは、中心となって取り組んでいるところ
です。・・ ⑦
- ・平成 24 年度機構改編によって部局名が変わったところは、平成 24 年度以降の名称で表記して
います。（ただし「幼児教育支援センターたんぼぼ（現てしま幼稚園地域子育て支援センター）」は
旧施設名の表記を使用しています）

(表示例)

NO.	事業名	取組の内容	区 分	状 況	指 標	平成 23 年度(2011 年度)実績		関係 部局・ 団体
						実績	実施状況と課題	
14	おはなしボランティア活動への支援	資料や場所、活動に必要な情報を提供し、講座の開催など学習の機会を保障する。 [153 にも掲載しています。]	継続 ①	○ ②	講座回数 / 団体貸出冊数 ③	8 回 / 15,379 冊 ④	「子どもと本をつなぐボランティア講座」受講者はここ数年減少しているが、退職後地域で活動を始めたという受講者が増えている。男性の受講者もあり修了後活動を続けている。こうした受講者の変化やニーズに合わせて講座の内容を検討していく必要がある。(全 6 回のべ受講者数 91 人) 「おはなしボランティアフォローアップ研修講座」パート 1 では大阪国際児童文学館特別専門員川内五十子氏を招き、高学年の子どもたちへの読み聞かせテーマでご講演いただいた。パート 2 は、読み聞かせボランティアの間で挑戦する人が増えつつあるストーリーテリング(素話)について、長年地域で活動を続けている野畑おはなしの会のメンバーに実演を交えてお話いただいた。いずれも公共図書館の司書も参加し、研修の機会とした。(2 回受講者 102 人)今後も活動中のボランティアの悩みや興味にあった内容で引き続き開催していく。⑤	読書振興課・図書館 ⑦
<p>・選書は毎回悩み、どれがよいか悪いかと苦戦していましたが、道が開けました。・絵本の持つ力、絵本のよさなどポイントを捉えてよく分かり楽しい内容でした。(フォローアップ研修講座パート 1 アンケートより)</p> <p>・少し前からストーリーテリングをはじめたのですが、なかなか難しいと実感しています。でも、今日のお話を聞いておはなしを語るのはとても素敵なことだと感じたので、これからがんばってレパトリーを増やしていきたいと思います。・ストーリーテリングの実演もすばらしく、楽しい時をすごささせていただきました。芽生えるかどうかは分からない種を子どもの心に植える、とのお話にも感動。ともに過ごしたおはなしの時間が誰かの心の中で育っていくかも、と考えるのはとても幸せなことだと感じました。(パート 2 アンケートより) ⑥</p>								